

## 授業科目 発達障害作業療法学演習

【担当教員名】 永井 洋一		対象学年	3	対象学科	作業
		開講時期	後期	必修選択	選択
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
○	◎	◎	◎	◎	
【一般目標：GI0】 発達障害児の作業遂行を可能にするための援助方法について、具体的実践の方法を習得する。					
【行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> <li>発達障害児で阻害される作業遂行課題とその遂行要素について分類する。</li> <li>時期別に身体的・精神的障害が発達に及ぼす影響を分析できる。</li> <li>家族の支援について適切な方法を提案することができる。</li> <li>作業課題の具体的障害について、模擬的に演じることができる。</li> <li>作業遂行を可能にする指導・援助について、その方法を模擬的に示すことができる。</li> <li>感覚統合療法を体験し、指導技法を模倣することができる。</li> <li>発達障害児を想定し、次のいずれかをグループごとに発表することができる： <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもの指導に使える玩具又は遊具を立案・設計する（模型など）。</li> <li>子どものADLを援助する自助具を立案・設計する（模型など）。</li> </ol> </li> <li>遊びそのものの援助とその治療的利用について、原理と方法を説明することができる。</li> </ol>					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	発達障害と作業の障害～ライフ・ステージと作業療法			1	講義・討議
2	障害が身体面に及ぼす影響			2	討議
3	障害が精神面に及ぼす影響			2	討議
4	子どもの障害が家族に及ぼす影響とその支援			3	講義・討議
5	感覚統合臨床観察による評価技法（1）			4,5	講義・実習
6	感覚統合臨床観察による評価技法（2）			"	"
7	感覚統合臨床観察による評価技法（3）			"	"
8	遊びの援助と治療的利用（1）			"	"
9	遊びの援助と治療的利用（1）			"	"
10	遊びの援助と治療的利用（2）			"	"
11	遊びの援助と治療的利用（3）			6	"
12	遊具・自助具制作（1）			7,8	"
13	"（2）			"	"
14	"（3）			"	"
15	遊具・自助具の発表			"	発表
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書		脳性麻痺児の家庭療育（第3版）	Finnie,R.、（鈴木、梶浦：訳）	医歯薬出版	1999・3,500円＋税
		感覚統合Q&A（第2版）	石井孝弘、岡本武己、土田玲子	協同医書出版	2013・3,000円＋税
その他の資料		授業時に配布する			
【評価方法】 出席：10% 授業態度：20% レポート：40% 発表：30%			【履修上の留意点】 発達障害作業療法評価学、及び発達障害作業療法学の単位を取得していなければならない		